

① 藤田節子 著

『本の索引の作り方』

(天人書館)

一冊の本の中で特定の言葉について調べる、あるいは引用の際に役立つ「索引」。しかし日本では辞典の類を除けば、索引の付いた本は多くありません。著者も出版社も索引作りに割ける時間が無く、それに関する知識も乏しい有様です。ただ日本語の場合、26文字のアルファベットに比べ、漢字、平仮名、片仮名と多様です。「害虫の被害」を探する場合、「害虫」で探すとは限りません。「イナゴ」あるいは「蚊」などで探す人もいでしょう。

本書は「索引」の工程や利便性、本の商品価値自体を高める重要性、使い易くなる作り方などを多くの例や図表を交えて説明しています。司書資格をお持ちの方にも一読の価値があると思います。(H.I.)

021.4 ||Fuj

③ 加藤諦三 著

『どんなことから立ち直れる人』

『逆境を跳ね返すカ「レジリエンス」の獲得法』

(PHP新書)

生きづらい世の中で、人は自分の運命をどう生きるのか、自らが幸せを得る力をどのように身につけて生き抜くのか。

「レジリエンス」とは“人生の挫折に対処する能力”についての心理学理論のことです。

人生において、全てが順調な人間はいません。むしろ人生は毎日がピンチ、人生は困難の連続。その中で挫折したとき、落ち込んで立ち上がれなくなるのか、それでも前を向いて歩いていけるのか。「レジリエンス」という逆境に立ち向かう思考が自らにあるかないかで、人生の選択肢が大きく変化していきます。

ピンチや困難をただ怒り嘆き続けるのか、チャンスに変えて前に進むのか？それは、あなたの考え方次第で変わります。(M.T.)

159 ||Kat



② 長村祥知 編

『京都観音めぐり 洛陽三十三か所の寺宝』

(勉誠出版)

日本には古くからお寺を巡る霊場巡りというものがあり、お遍路と呼ばれる四国八十八所霊場や西国三十三所霊場が有名です。そして京都には平安時代末期に興された洛陽三十三所観音霊場があります。同霊場巡りは衰退していた時期もありましたが、近年は御朱印ブームもあって、再び脚光を浴びています。

本書は同霊場の解説や札所である各お寺の紹介、そして、普段は見ることができない寺宝もカラー写真で数多く掲載されています。

札所は清水寺、三十三間堂、六角堂といった観光地として有名なお寺から、街中の小さなお寺まであります。すべて京都市内に点在していますので、気楽に巡ることができます。千年以上京都の地に息づく信仰に触れてみてはいかがでしょうか。(H. M.)

186.9162 ||Kyot

④ ルイ・ズィンク、黒澤直俊 編

『ポルトガル短篇小説傑作選』

『よみがえるルーススの声』

(早川書房)

「そういえば読んだことがない」それが本書を手にしたきっかけです。欧米の翻訳小説はそれなりに読んできたつもりでも、ポルトガル文学には触れたことがない、という方は多いのではないのでしょうか。短篇小説傑作選、という名の通り、選りすぐりの12人の現代作家の作品が収録されています。

「髪を切るっていいですね。」で物語が始まるイネス・ペドロージャの「美容師」が個人的には印象的でした。それぞれに趣が異なる12作品の中であなたの心に残るのはどれでしょう。

以前訪れたリスボンの街並には、欧州の他の街とは似ているようで違う、独特の佇まいがありました。あの日の感覚を思い出した一冊です。(Y.K.)

969.3 ||Port